

三度目の帯状疱疹

右りまから痛^たかかてアツ^たアツ^たと赤い
 フが去果^きていゝ 今回^こはひざ^さ下^かや^きき^き増^ま
 と範圍^{はん}が広い 痛^{いた}い 左^{ひだり}の脛^{すね}まで
 れど気がなる 最初の帯状^{たいじょう}疱疹^{かぜん}は左^{ひだり}の
 膝^{ひざ}に 帯^{たい}を穿^くして それからどうし
 家の水^{みづ}浸^ひかす印^{いん}が存^{ぞん}在^{ざい}する
 どうやら7^{しち}印^{いん}が不明^{ふめい} つかさずい
 ぐろスル^{ぐろ}と^とほほとんと大^{おほ}きだ 就^{すなは}ち銀行^{ぎんぎん}
 が多い

続

ソとバ^とと有^あら^らいに行^いこうとさそつて
 友人^{とも}はソ^とカ^かべ^べじ^じを^をけ^けり^りア^アして銀行^{ぎんぎん}だ
 自分^{おれ}には存^{ぞん}在^{ざい}も無い そ^としてそん^んな心^{こころ}の^のやう
 うちきいて^てもう^うま^まの^の人^{ひと}が^がな^ない
 学校^{がっこう}へ^へ帯^{たい}状^{じょう}疱疹^{かぜん}の^の診^{しん}断^{だん}書^{しょ}を^を出^だして^{して}左^{ひだり}の^の足^{あし}
 を^をそ^とん^んな^な病^{びょう}多^たす^すい^いに^にと^とな^ない^いと^とい^いや^やわ^わら^ら
 それ^{それ}か^から^らず^ずと^と帯^{たい}状^{じょう}疱疹^{かぜん}と^と縁^{えん}が^が存^{ぞん}在^{ざい}した
 二度^{にど}目は^め三^{さん}年^{ねん}前^{まえ}
 その^{その}ころ^{ころ}理^り学^{がく}癩^{れん}病^{びょう}は^は左^{ひだり}の^の心^{こころ}の^のり^りん^{りん}せ^{せい}り^り
 身^みの^のり^りん^{りん}せ^{せい}り^りで^でなく^{なく}心^{こころ}の^のり^りん^{りん}せ^{せい}り^り

子一で電話のりせりた
 と今りの部屋スーパの物置のよふよふ知上
 ホーレホーレいっけいへルヒシにけがてもろ
 るうぬと日々もんこすこせに
 が突然の転動「ミヨヤ」た「明日のう
 どうしよう」そこでホニの帯状疱疹だ
 立ちをさすのには何ヶ月もかかっ
 今回の三日目の厚田はたどい
 明日からあむつけ自分で取りかえ下
 へルヒシでなく家政婦会を紹介し

一戻目はくまの迷い
 二戻目は幸との知山
 三戻目は三度目はいし
 四戻目は「ハラスメント」
 だ 帯状疱疹は心の不安定が
 三度で終りにしてはい